



## 医療ソーシャルワーカー

### ■高崎総合医療センター

ソーシャルワーク室長 篠原純史さん



患者さんが抱える悩みに耳を傾け、伴走者になって解決への道筋を見いだすのが医療ソーシャルワーカー（MSW）。その仕事内容は経済的、心理的、社会的なものまでと多岐にわたります。

「患者さんの生活や思いにも目を配り、全体を見渡しながら支援や調整をしていく必要があります。だからモットーは患者さんと同じ目線に立つことです」

また、退院や社会復帰に関する相談をはじめ、児童虐待や自殺企図、アルコール依存症といったケースでは、患者が関わる環境や生活まで視野に入れ、きめ細かなケアをする必要があります。

MSW が果たす役割は確実に増えています。こうした重要性を踏まえ、国立病院機構（NHO）は2015年に全国139病院に配置するMSWを459人にまで増やしました。

現在、1つの病院で療養の完結を目指す「病院完結型医療」から、保健・医療・福祉が連携し、地域全体で患者を支える「地域完結型医療」が注目を集めています。「今後はこれを拡充する司令塔として、MSWの専門性とコーディネート力を生かした患者さん支援を目指していきます」。そのためにも

「MSWは地域を積極的に歩き、地域をベースに物事を考え、患者さんの揺れる心に寄り添っていくべきです」と強調。さらに、「地域包括ケアを定着させるためにも、地域や患者さんの要望に病院がどう応えるかという発想が必要になるでしょう」と話しています。

**（高崎総合医療センター＝群馬県高崎市）**